

第9期県民生活審議会第1回全体会（概要）

1. 日 時 平成23年8月18日（木） 14：00～16：00
2. 場 所 パレス神戸大会議室
3. 出席者 委員：浅井委員、浅倉委員、井原委員、岩成委員、上杉委員、大前委員、木田委員、北野委員、小西委員、佐藤委員、清水委員、瀧川委員、鳥越委員、根岸委員、野崎委員、幡井委員、服部委員、藤浦委員、^{めぐみ}恵委員、安平委員、山下委員
県側：井戸知事、清原理事、高井政策監、溝口教育次長、梅谷県民文化局長、横山生活消費局長、川村県民生活課長、竹村協働推進室長、東元消費生活課長、幹事課室ほか関係職員

4. 内 容

(1) 知事挨拶

- ・ 兵庫県が生活の科学化から県民運動まで色んな課題に県民を挙げて取り組んできた背景を踏まえ、第8期では地域における行動の基本的な理念としてコモンズという提案をいただいた。
- ・ 象徴的だがわかりにくいコモンズをわかりやすくするのが第9期の課題であると思う。
- ・ 色んな実践活動が現実には展開されているが、それを体系化、整理して、鳥瞰図のようなものを示して頂けると運動実践家、これから参加する人、卒業して指導する人に役に立つと思う。
- ・ 東日本大震災の復興の道筋がようやくついてきたが、16年前の阪神淡路大震災を経験した地域として、経年や教訓を被災地に生かして頂くべく、よかれと思うことを追い返されない限りやっていきたいと思う。
- ・ 被災地の生活再建が緊急課題になっている。非常に難しい問題だからこそ、国民全体で色々な角度から提言していく必要がある。

(2) 会長、副会長選出

- ・ 野崎委員が会長は鳥越委員、副会長は上杉委員とご提案し、異議なしで了承。

(鳥越会長挨拶)

- ・ 2月に第8期の答申を出してから東日本大震災という予想もしないことが起きた。日本国民全員はもちろんだが、特に阪神・淡路大震災を経験した私たちは、一層深い傷と経験の深さを備えていると実感した。
- ・ 第8期のコモンズはコミュニティ論を超えたものを地域社会において作っていかうと提案した。これは論理的には良いもので、それを第9期で具体化していかなければならない。
- ・ 論理的に綺麗なものを具体化するのは難しい。震災を二重に体験した私たちはこれを踏まえながら新しい社会をどのようにするか考え、しかもそれが実践的なものでなければならぬ。私たちはお互いに知恵を出し合って何とかしなければならぬ。

(上杉副会長挨拶)

- ・ 第8期で「新しいコモンズ」として、従来言われてきたコモンズとは違ったニュアンスで、これからの社会のあり方、地域のあり方を問うてきた。これを具体化する時、典型は示したとしても、多様性もあるので、これが全てのモデルになるわけではない。

- ・ 第8期では色んな繋がり方について、「こんなものもあるし、こんなものもある」という出し方をしたが、今回もそういう出し方になるのではないかと感じている。

(3) 会議の公開、部会の設置等

- ・ 会議は原則公開、議事概要も原則公開として了承
- ・ 資料1の通り部会の設置を了承
- ・ それぞれの委員構成についても案の通り会長指名
- ・ 総合政策部会長に加藤委員、生涯学習部会長に上羽委員、消費生活部会長に根岸委員、参画・協働推進委員長に小西委員を会長指名

(4) 審議事項について

- ・ 審議事項について事務局から資料2に基づき説明

(鳥越会長)

- ・ 第9期では県民ボランティアの関係については法の改正等に基づいて見直し作業に入る。
- ・ 消費生活は大きく方針は変わらないが引き続き大切な事項について審議いただく。
- ・ 第8期の次は何かと考えた時、東日本大震災を期に国民、県民の意識が新しい方向に向かいつつあり、その方向は私たちが今まで考えてきたコミュニティを中心にして様々な活動をしていくことが大切だということとは変わっていない。しかし十分に内容が見えない。
- ・ 第9期はこれまでと違って諮問がないので、自由に建議することが出来るが、自由の辛さもある。
- ・ 第6～8期の議論、阪神・淡路、東日本大震災の経験を受けて考えると、兵庫県らしさは、地域の個性を大切にしながら一人ひとりの繋がりをどうすれば良いかということになる。コモンズ論で言えばそれぞれの地域が持っている資源をどのように豊かにしていけばいいのかという方向になる。
- ・ 資源を何と捉えるかは地域の自由。土地でなくても子どもと捉えても良いと思う。
- ・ 今年は悩むことになるので、自由に発言して良いアイデアを出していきたい。震災の影響が大きいと思うので、新しい社会をこの時期に作っていこうという気持ちを反映したものにしたい。

(5) 意見交換等

<審議の視点>

- ・ 今まで目に見える組織で考えてきたが、既存の組織ではなく個人として考えることからスタートする必要がある。またこれまで、課題からではなく活動から考えると解決方法が見えるということで、活動に視点を置いてきたが、課題自体をもっと掘り下げるべきではないか。
- ・ 何をするかではなくて、どうやるかというプロセスが大切ではないか。
- ・ これまでは都市部でバラバラの個人の中、どうコモンズを作っていくかが課題だったが、人口減少社会を迎えた地方ではコモンズはどう残っていくか、という地域性に応じた議論が必要ではないか。

- ・ 資料2に出てくる与布土地域はこの春、3つの小学校が統合された。与布土では小学校が拠り所となっているが、それが無くなってこれからどうなるかが非常に重要。統廃合の前と後を見られる点では、今後の中山間地域の一つのモデルケースになると思う。
- ・ 出会った人のご縁を繋いで育んでいくことがコミュニティの原点ではないか。育むというのは女性の強みであるので、女性がどのように社会とつながっていくかがキーになるのではないか。
- ・ 緩やかなつながりというのは理想的な概念だが、伝統的な関係が変化していくことはとても難しい。変化を考えていくには、変化しないものを実証的に捉えることで、その上で何が変わってきているのかが見えてくる。
- ・ 第8期の答申は地域のことに力が入っているが、家庭の記述が少ない。地域があつて家族があるのではなく、家族があつて初めて地域がつながっていく。
- ・ 今、地域でコミュニティをどうしていくかということは難しく、日々悩んでいる。「安全で安心なまちづくり」など綺麗な文句よりも、実際に安全と感じる人がどれだけいるかが大切である。
- ・ 県の施策が行われる中で、自分の意見がはっきり言える人の意見は表に出てくるが、消極的賛成や意見に自信の無い人はなかなか表に出てこないで、そういう人たちの意見もこの場で活かせるよう直接現場で意見を吸い上げたい。

<コモンズのとらえ方、今後のコモンズの議論の方向等>

- ・ ここ数年、第7期、8期で議論されているコミュニティのあり方は非常に重要だと実践活動の中から感じる。新たなコモンズを動かす仕組みが出来れば、活動の中でぶつかってきた課題が乗り越えられる仕組みが出来るのではないか。
- ・ 新しいコモンズは緩やかなつながりだけではなく、場も必要。それぞれの地域で何が拠り所で、中心的な存在になるのか定めてコモンズのあり方を議論していきたい。
- ・ シカ対策でネットを張る時にも土地の所有権の問題が出てきた。転売されて所有者がわからない土地もあり、問題解決出来ない。その時にコモンズという「共有するもの」というものの大切さを実感した。特に地方は、人が出ていき、放棄田が増えてきている中、土地をどうするのかという問題がある。また、東日本大震災で何もなくなった土地をもう一度再生するのに、コモンズが大事になってくると感じる。
- ・ 若い人たちがお金を持っていない一方、60,70代の人には財産を持っている。そういうお金をうまく地域で回せないかと思う。コモンズ具体化の中で個人財産のことについても議論に出てくるのではないか。
- ・ コモンズがコミュニティを超えた概念という発言があつたが、果たしてそうか、しっかり議論していく必要がある。

<コミュニティの単位について>

- ・ 県民交流広場は小学校区単位を基本としているが、昭和の大合併時など、歴史的に揉めたところは、小学校区でコミュニティを作っていくことが出来ないという問題が生じた。田舎は昔からの流れがあるので、果たして小学校区中心が本当に正しいか見直す必要があるのではないか。

- ・ 鎮守の森を中心とした氏子や、水利権を持つコミュニティは大きな力でコミュニティを形成している。そこにコミュニティとしての合意形成などのヒントがあるのではないか。南あわじ市の社会教育委員会でも祭りとコミュニティを取り上げている。そうした単位でも今後考えて行かなければならないのではないか。

<コミュニティでのつながり、人間関係、感情等について>

- ・ 意見というより私の失敗談を話すことで今後の議論の参考になれば。所属するNPOが世界的な大会の誘致に成功したが、地域団体の協議会と揉めたことで失敗した。田舎では挨拶の順番、席順などが非常に重要だが、若者が多かったNPOは、そこを配慮せず進めたことにより、感情論に発展し、最終的には協議会に開催を拒否された。

会場さえ借りられたら開催できたかもしれないが、複数の人が持つ土地の利用権もリーダー格の人が駄目と言うと、周りも何となく駄目という風に流れてしまう。結局、大会は日本だけの問題では無いので、国内の別の場所で開催をお願いすることになってしまった。

本当につまらない最初のつまずきが原因でこのようなことになる、という実際の例なので知っていただきたい。

- ・ 脳の中には本能と感情と理性の3つの脳が混在している。理性の脳は一人であることを好み、つながる、集まるというのは感情の脳。感情論という話が出たが、人がつながる時は感情が非常に重要となる。コモンズやコミュニティを取り上げるとき、感情というのは非常に大切になる。
- ・ 姫路の駅前が高架になることが決まり、行政が素案を書いてきた時、今までの行政への不信感より反対が多かった。それが変わったのは、行政が膝を割って情報開示してくれたこと、専門家を呼んでわかりやすく解説してくれたこと、市民や商業者が集まって何度も勉強会をしていったこと。感情論を乗り越えるには膝を割って話すプロセスをたくさん重ねることが大切である。
- ・ シカ対策の会に大学の先生や行政に来てもらったところ、地元住民から「現場も知らずに何を言っている」と反発された。しかし、大学も行政も「地域とつながるのはそんなもので、あきらめては駄目」と現場に入り続け、結果的に5年後の今、地域と強くつながっている。別の所から来る人間は自分がやってあげるという気持ちではなく、側で学ばせていただくという気持ちで入っていくと繋がりが出来るということを学んだ。

<地域における組織、ネットワーク、関係性>

- ・ 地域課題を自ら解決しようと県民交流広場で取り組んでいる中で住民の意識を変えていくことの大切さを感じる。ピラミッド型の組織づくりではなく、住民を真ん中に置いたネットワークを作り、それぞれの立場で何が出来るかを大切にし、一つの課題に関わるというやり方を発見した。
- ・ 物事には表と裏があり、地域の力もプラスに働くとすごい力を発揮する。新しいもの、古いものがうまく接点を作ることが出来れば、田舎の力は馬鹿に出来ない。長がいてその下がいる、という地域の関係性も合意形成の時には実は役に立っている。
- ・ トップは複数置き、ネットワークを広げ、最終的には校区まで広げていくと良いのではないか。

<コモンズ、地域活動への参画について>

- ・ 昔と比べて専業主婦が少ないので、現状としては参加してもらう人が少なく、参加してもらうのに苦労する。
- ・ 県民交流広場で大きくコミュニティ活動が出来たことは確かだが、そこに出てくる人とそうで無い人がおり、それをどうするかは、最初は隣保レベルから始め、それを徐々に広げて考えるとよいのではないか。
- ・ 同じ神戸でも一戸建てに住んでいたときはPTA会長や自治会等の活動を通じて地域に参加していたが、今はマンション住まいで子どもも成長し、完全に地域社会からは孤立している。コモンズとして緩やかなつながりといっても、つながりゼロからでは今後もゼロだと思う。マンション住まいの人に具体的にどのようなコモンズという場を提供出来るかが気になる。
- ・ 地域活動に参加したくないといていた人も、無理矢理参加させると楽しかったということになり、以後のコミュニティの参加につながっていくので、特に都会にそのような場を作らなければいけない。

<家族と地域、社会の変化、その他>

- ・ 昔は家族が一緒に住んでいて、虐待があっても祖父母が諫めているような繋がりがあり、それが人権尊重につながっていた。それぞれの個性、人格を尊重することは、まず家族から大切にすることから始まり、地域に広がっていく。
- ・ 今大きな時代の変革期であり、次に変わるのは価値観の変化ではないか。また、システムも大きく変わっている。インターネット（フェイスブック、ツイッター）等で今まで声の大きいものだけが支配していた状況から変わってきた。
- ・ ウーマノミクスという女性経済がこれからの日本を引っ張っていく要素になる。

(6) 鳥越会長まとめ

- ・ 皆さんが好き勝手おっしゃったことに共通性があり、何らかの方向性が見えてきた。
- ・ コモンズについて皆さんは積極的に捉えてくれており、コモンズをもう少しきちんと考えるということ、共通の資源をどのように利用していくかという課題について考えたいという意見かと思う。
- ・ 都市と農村でかなり違うとのご指摘があったが、県としても違いを認めつつ、共通点を見ることによって何らかの具体的な道筋が作れそうである。
- ・ まちづくり協議会が少し古くなってきて住民の自治性、意志決定をもっと強めていこうという全国的な動きを踏まえながら、住民自治ということをコモンズの中で考えていく必要がある。
- ・ 地域として、小学校区ということに疑義が少し出た。県の施策はこれを軸に考えているが絶対に正しいものでもないので、検討していくことも視野に入れたい。
- ・ 組織論から人間に帰り、活動ではなく、課題そのものに帰る必要がある。これは価値の問題に絡んでくる。
- ・ 無縁社会で孤立している人たちも含めてコモンズを考えていかなければならない。
- ・ 大まかな枠組みは何となく出来てきたので、これを深めていけば県民の方々に考えて頂け、

よい県政に持っていけるアイデアが生まれるのではないかと。

(7) 今後のスケジュールの報告

- ・ 今後の審議スケジュールについて事務局から報告
- ・ 各部長、委員長で構成し、各部会間を調整する政策委員会で諮りながら、全体会で審議する方法を取ることを確認。

(8) 清原理事挨拶

- ・ 暑い中熱い議論を交わしていただき、お礼申し上げます。
- ・ 東日本大震災後、サマータイムということで県職員は8時出勤となっている。でんき予報などで暮らし方の改革を切実に身近に感じている人も多いのではないかと。
- ・ 時代の転換点にあってコモンズの見える化ということも、今ほど要求されている時も無いのではないかと。
- ・ 建議という形でご自由に存分にご提案頂きたく、第9期をお願いする次第である。皆様方からの率直で、具体的なことにつながっていくご議論をお願いしたい。